

便潜血検査(大腸がん検診)について

臨床検査技師

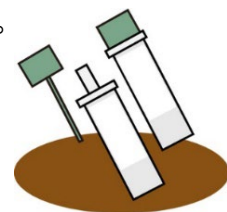
条 和恵



便潜血検査は専用容器に採取した便に血液が混じっていないかを調べます。

消化管（大腸）の病気の有無を推し量るのに有用ですが、誤った採取の方法や保存方法により、正しい結果が得られない場合があります。

以下に便の採取・保存方法の注意点についてお伝えします。



① 色んなところをこすり取る

→便潜血検査は目には見えないほんの少しの血液をも検出可能な検査ですが、血液は便に均一についていないため、便の色んな表面をこすり取ってることが大切になります。

② 適量（溝が埋まるくらい）をこすり取る

→大腸の中では正常な人でもごくわずかな血液が出てくることがあるので、多くとりすぎると陽性になる確率が高くなってしまいます。採便棒の溝が埋まるくらいの量を便の色々なところからまんべんなくこすり取りましょう。

③ 便をお水につけない

→排便をした際に、トイレのお水についてしまうと、便の表面に付いていた血液が流れ出てしまいます。排便をする際には便の重みで沈まないようにトイレットペーパーを先にしいて、その上に採便用のトレールペーパーをしいて排便しましょう。

④ 便を取ったら早めに提出、もしくは低温で保存する

→便の中の血液（ヘモグロビン）は、高い温度に置くほど減少する・時間が経つほど減少するという不安定な性質を持っています。もしも長時間高温に置かれた場合、出血していても検査では陰性になってしまうかもしれません。保存状態が悪かった場合、正しい結果ではなくなってしまう可能性があります。採便したら早めに提出、もしくは出来るだけ低温に保存することが大切です。可能であれば冷蔵庫、または保冷剤を入れたアイスボックスや発砲スチロールに入れて保存しても良いでしょう。



便潜血検査（大腸がん検診）は、
みなさんの『便をとる』ところから始まっています。